

漁獲シナリオ等の検討について

今後のスケジュールについて

資源管理方針に関する検討会
～第6回ズワイガニ日本海系群A海域～

令和8年3月12日(木)

水産庁

目次

1. 資源管理の目標の案
2. 漁獲シナリオの案
3. 国の留保の案
4. 今後のスケジュールについて

1. 資源管理目標の案

- 資源評価に基づき研究機関から提案されている資源管理目標の案を採用する。

項目	新しい案	現行
目標管理基準値 =MSYを達成するために維持・回復させるべき 目標となる親魚量(成熟した雌の資源量)	2.6千トン	3千トン
限界管理基準値 =下回ってはいけない資源水準の値(過去最低 の親魚量)	1.5千トン	1.5千トン
禁漁水準 =MSYの10%の漁獲量が得られる親魚量	0.2千トン	0.1千トン

2. 漁獲シナリオの案

- 親魚量が10年後の2036年に、50%以上の確率で目標管理基準値を上回るよう、漁獲圧力を調整する。なお、研究機関からは、資源評価の不確実性も考慮して、 $\beta = 0.8$ 以下にするのが望ましいとされている。
- 第5回ステークホルダー会合での議論及び研究機関の追加試算を踏まえ、本資源の持続的利用の確保と安定供給の両方を実現する2026年以降の漁獲量は3,000トンを上限として、 $\beta = 0.8$ を漁獲管理規則に用いて算定される漁獲量がそれを下回る年は当該漁獲量とする漁獲シナリオを提案する。

【将来の平均漁獲量(千トン)】

漁獲管理規則	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	
$\beta = 0.8$	3.7	5.4	3.9	2.5	2.2	2.4	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	
$\beta = 0.7$		4.8	3.6	2.3	2.1	2.3	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	
$\beta = 0.8$, 上限3,000トン		3.0	3.0	2.9	2.4	2.6	3.0	2.9	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8
$\beta = 0.7$, 上限3,000トン		3.0	3.0	2.6	2.2	2.4	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7
Fcurrent		3.7	2.9	2.0	2.0	1.8	2.0	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4

(出典)第6回資源管理方針に関する検討会(ズワイガニ日本海系群A海域)資料1

参考：ABCの上限値を設けた場合の将来予測試算（前回会合の指摘事項への回答）

- 本資源の将来予測は、2027年以降、親魚量が急減することを示している。
- 前回ステークホルダー会合において、本資源の持続的利用の確保と安定供給の両方を実現する漁獲シナリオとして、2026年以降の漁獲量は3,000トンを上限として、 $\beta = 0.8$ 又は 0.7 で導かれる将来の平均漁獲量が3,000トンを下回る場合には当該漁獲量とした場合の将来予測の試算を求める意見が出た。
- 研究機関の試算結果は、ABCの上限を3,000トンにすると、 $\beta = 0.8$ の場合、2028年～2030年の予測漁獲量が200～400トン増加し、漁獲量の変動幅が2,400～3,000トンに縮小することを示した。

【追加将来予測の結果】

表 1. 将来の平均親魚量(千トン)

漁獲管理規則	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
$\beta = 0.8$	7.1	4.9	3.0	2.1	3.1	3.1	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0
$\beta = 0.7$		5.1	3.2	2.3	3.3	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.4
$\beta = 0.8$, 上限3,000トン		5.7	3.7	2.5	3.4	3.5	3.4	3.3	3.2	3.2	3.2	3.1
$\beta = 0.7$, 上限3,000トン		5.7	3.7	2.6	3.6	3.7	3.7	3.6	3.6	3.6	3.6	3.5
Fcurrent		5.5	3.6	2.7	3.9	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2

表 2. 将来の平均漁獲量(千トン)

漁獲管理規則	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
$\beta = 0.8$	3.7	5.4	3.9	2.5	2.2	2.4	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8
$\beta = 0.7$		4.8	3.6	2.3	2.1	2.3	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7	2.7
$\beta = 0.8$, 上限3,000トン		3.0	3.0	2.9	2.4	2.6	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8
$\beta = 0.7$, 上限3,000トン		3.0	3.0	2.6	2.2	2.4	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.7
Fcurrent		3.7	2.9	2.0	1.8	2.0	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4

表 3. 将来の親魚量が目標管理基準値案を上回る確率(%)

漁獲管理規則	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036
$\beta = 0.8$	100	100	63	24	95	98	98	98	98	98	98	90
$\beta = 0.7$		100	71	32	99	100	100	100	100	100	100	96
$\beta = 0.8$, 上限3,000トン		100	83	39	99	99	96	97	98	98	97	93
$\beta = 0.7$, 上限3,000トン		100	83	42	100	100	100	100	100	100	100	97
Fcurrent		100	82	48	100	100	100	100	100	100	100	99

(出典) 第6回資源管理方針に関する検討会(ズワイガニ日本海系群A海域)資料1

3. 国の留保の案

- 本資源では、令和3管理年度以降、TACの7%を国の留保としてきたところ。
- 関係県及び関係団体からは、厳格な数量管理を行う体制が整っており、当初の配分数量内で漁獲量を管理する前提であれば、留保の割合を低くしてもよいのではないか(具体的にはTACの5%)との提案があった。
- 配分数量を超過するリスクは極めて低いことから、令和8管理年度については、TACの5%を国の留保とする。

4. 今後のスケジュールについて

R7年 6月23日	第4回ステークホルダー会合 <ul style="list-style-type: none">• 現行の資源管理方針及び資源の状況等について説明• 今後SH会合で検討すべき事項について説明・議論
9月26日	資源評価結果公表
10月28日	第5回ステークホルダー会合 <ul style="list-style-type: none">• 令和7年度資源評価結果について説明(資源管理の目標(案)及び漁獲シナリオの検討)• 資源管理目標、漁獲シナリオ等の議論
R8年 3月12日	第6回ステークホルダー会合 <ul style="list-style-type: none">• 資源管理目標、漁獲シナリオ等の議論の続き• 議論の取りまとめ
4月	パブリックコメント開始 (会合の取りまとめを反映した、資源管理方針の変更(案))
5月	水産政策審議会資源管理分科会 <ul style="list-style-type: none">• 資源管理方針の変更(案)に対する意見聴取• 令和8(2026)管理年度のTAC及びその配分(案)に対する意見聴取
6月	資源管理方針の変更及び令和8管理年度のTACの決定
7月	変更後の資源管理方針等に基づくTAC管理開始

本日はここ